



ひすい

糸魚川市立ひすいの里総合学校

学校だより 11月号 (No. 14)

令和3年11月26日発行

交流及び共同学習

共同作品「わたしとあなたと、みんなのうみ」



11月16日(火)の3・4限に、糸魚川小学校の講堂で小学部児童全員と糸小の4年生との交流及び共同学習を行いました。内容は、図画工作で糸魚川の「海」をイメージした共同作品作りです。子どもたちは5～6人の小グループに分かれ、約80cm×110cmの白色の紙の上に、グループで力を合わせてちぎった「色が溶け出るアートペーパー」を降らせたり散らせたりして載せ、少量のボンドを溶いた水を含ませたスポンジで押しえて色をにじみ出させ、完成させました。

アートペーパーをみんなで持って「せーの！」で引き裂いたり、色合いやバランスを話し合いながら配置したり、手分けをして色出しをしたりするなど、両校の児童が心を通わせ、助け合いながら作品作りを進めました。これまでに、一緒にウォークラリーをしていたことから相手の顔が分かり、どこのグループでも自然な関わりが生まれていました。

交流及び共同学習は、障がいのある児童生徒にとっても障がいのない児童生徒にとっても、経験を通して社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、互いを尊重し合う大切さを学ぶ貴重な機会です。学校卒業後においては、障がいのある児童生徒にとっては様々な人々と共に助け合い支え合って生きていく力となり、積極的な社会



参加につながります。障がいのない児童生徒にとっては、障がいのある人に言葉を掛けて手助けをしたり、支援を行う場に積極的に参加したりするなどの行動が自然にできる素地となります。また、人々の多様な在り方を理解し、障がいのある人と共に支え合う意識をつくり出すことにつながります。

ひすいの里総合学校では、開校以来、糸魚川小学校の運動会に参加したり、合同の文化祭として一緒に音楽発表をしたり作品展示をしたりして交流を積み上げてきました。また、日常の活動として、繰り返し合同で学習したり昼休みなどに一緒に遊んだりして人間関係を深めることも行ってきました。これからも、同じ屋根の下で学校生活を送るよさを生かし、互いに学び合い、育ち合う教育活動を進めていきます。



臨時 PTA 全体会 (タブレット・進路の研修)

11月19日(金)に臨時PTA全体会として、子どもたち一人一人に貸与されたタブレットに関する研修会と、新型コロナウイルス感染拡大に伴って延期となっておりましたPTA「進路研修会」を糸魚川小学校の多目的室を会場に2部構成で実施しました。保護者の皆さんには11月に入ってからの案内にもかかわらず、多くの方々からご都合をつけて参加をいただき、ありがとうございました。



前半のタブレット(iPad)に関する研修会は、これからの情報化社会を生きるために、学校生活や社会生活において情報機器を活用できる力を育てようとする国の施策を受けて、学校で取り組もうとしている情報教育(タブレットの活用)について保護者の皆さんにご理解とご協力をいただくという趣旨で開催したものです。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、糸魚川市では原則として、市立の小・中・特別支援学校において2学期中に1回はタブレットを家庭に持ち帰り、活用するという

ことを目指しています。当校では、これまでに保護者の皆さんにアンケートをとり、どのようなやり方がいいのかを模索してきました。そこで、まずは保護者の皆さんから「タブレットに触れていただく」、「操作していただく」とするところから始めることとし、今回の研修会となった訳です。市のICT支援員の近藤先生に講師をお願いし、説明と指導をいただきました。今後、保護者の皆さんからいただいたご意見を参考にして、あせらずに当校なりの取組を進めていきたいと考えております。



後半は、福祉事務所の2人の職員からお越しいただき、PTA進路研修会を行いました。事前に福祉事務所にお伝えしてあった保護者の皆さんから出された質問事項について、回答していただくという形式での研修会でした。今回のテーマであった「学校卒業後の進路」は、卒業時点になって考えるのではなく、子どもが小さい頃からイメージしておくことが大切です。福祉の状況は住む場所によって異なります。行政に聞いたり、先輩の保護者の方に伺ったりしながら考えていきましょう。